ひだまり

2014 Vol. 5

秋田大学教育文化学部・教育学研究科 後援会情報誌

平成26年3月1日　第5号

愛称「ひだまり」は，教育文化学部が「秋田の文化の温かさ」の集まる日溜まりのような場所となり，皆様にその暖かさが届きますようにという願いを込めて名付けられました。

もくじ

100キロマラソンで感じた人と人とのつながり　1

後援会活動報告（後援会長），就職・進学が決まった学生からメッセージ　2・3

教育文化学部就職活動支援（就職委員長）、就職内定状況　4

就職情報室利用学生インタビュー／旭水会のご案内　5

教員採用支援講座「スタージュ」を開講しています／学部長あいさつ／大学・学部関係行事予定　6

100キロマラソンで感じた人と人とのつながり

私たちは教育文化学部の授業である「地域学基礎」の実習で，2013年9月22日（日）に行われた「第23回北緯40°秋田内陸リゾートカップ100キロチャレンジマラソン」に大会ボランティアとして参加しました。このマラソンは北緯40度線が通っている阿仁地区で年に一度行われているマラソン大会で，全国各地から幅広い世代の方々が参加しています。

今回私たちは地元ボランティアの方々と共にエイドステーションのスタッフとして，飲料・食料の準備や選手の方々への声掛け，テント設営などを手伝わせていただきました。エイドステーションではその地域の婦人会の皆さんを中心に少しでもランナーの方々の力になれるようにという配慮と工夫が多く見られ，地域性を生かした食料を提供しているところもありました。

ボランティアに参加したメンバー（9名）のほとんどは秋田県の出身者ではありませんでした。しかし，このボランティア活動を通して秋田県についてのお話を聞いたり，調べたりすることで，それまで知らなかった秋田県に根付いた文化や自然の豊かさを学ぶことができたと思います。それに加えて，エイドステーションの方々がランナーとの交流を積極的にとろうとしている様子や，どのようにすればランナーにとってより利用しやすいエイドステーションになるか協力して考えている様子を見て，人々の温かさも感じることができました。

また，私たちはそれぞれ出身地も学年も異なりましたが，活動を通じて交流を深めることができました。この大会の目的の一つとして地域の活性化が含まれていますが，この大会を通して人々の交流を深めることもできると思います。今後PR活動を広く行ったりリレー方式等を取り入れることで参加者が増え，より多くの世代間交流が見られるようになったり，遠方から秋田県へ訪れる人々が増えていくのではないかと考えます。この大会によって秋田県が今以上に活性化し，人々との交流の盛んな地域へと発展してほしいと思いました。

教育文化学部人間環境課程　2年次
鈴木　愛萌，上條　りさ，真坂　梨奈，太田　恭乃

後援会活動の一層の充実を

教育文化学部後援会　会長　伊藤　一

秋田大学教育文化学部の後援会会員の皆様，並びに教職員の皆様におかれましては，日頃から当会へのご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。

さて，今年度も間もなく終わろうとしております。特に卒業生は，新しい社会への旅立ちに胸を高鳴らせていることと思います。学生たちの大きな成長の陰には，学生自身の努力があるのはもちろんですが，教職員の皆様の親身になった指導があります。本学部においては，学生たちの学びの充実に向けて，個別に相談に乗るなど，学生の実態を踏まえた細やかなサポートをしてくださっております。このことは，学生たちの安心感を高め，学ぶ意欲を向上させる原動力となっていると思います。また，就職活動においても，専任の職員をおいての就職情報室の運用や，就職セミナー，教員採用支援講座「スタージュ」，「スタージュスプリングキャンプ，オータムキャンプ」など，学生の主体性や共同性を生かした取組をしていただいております。

後援会としては，今年度7月に理事会，総代会を開催し，それを受けて，11月に各地区会を開催しました。その際には，大学の先生方がご出席くださり，今述べた大学の取組の具体や就職状況をはじめとした様々な情報を詳細にわたって提供してくださいました。今年度，学部課程においては，昨年度に比べ卒業予定者が多いという状況の中でも，就職内定率が上昇しているというお話をお聞きして，大学の多様な取組の成果の表れであると感謝しております。来年度は，学部再編という大きな変化がありますが，今後も後援会として学生一人一人が充実した大学生活を送り，将来の道をひらいていけるよう，一層の支援の充実を図ってまいりたいと思います。会員の皆様には，今後も会費納入をはじめ，各方面でのご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成25年度の理事会・総代会の様子

就職・進学が決まった学生からメッセージ

平成25年11月30日(土)に開催した中央地区会にて，４年生就職活動・大学院合格体験発表を行いました。参加された方からの反響も良く，今回改めて本誌に掲載します。保護者の方のみならず，学生にとっても参考になる内容です。

教員採用試験を通して

教育文化学部　学校教育課程
教科教育実践選修　浅野　亘

私が教員を目指すようになったのは，中学１年生のときの学級担任の先生との出会いがきっかけでした。とても優しく，頼りがいのある先生を見て，漠然と「こんな先生になりたい」と思うようになりました。そして高校生になって数学を勉強しているうちに，数学という教科に面白さを感じ，「高校数学の教員になりたい」と目標を決め，地元の秋田大学教育文化学部学校教育課程に進学しました。

教員採用試験の勉強を本格的に始めたのは大学３年の１月からでした。高校の教員採用試験の一次試験では専門科目の点数が最重要となってくるので，当然私も専門の数学を中心に勉強していました。その際心がけていたのは「なぜそのように考えるのか」「なぜそれが成り立つのか」ということを常に意識していたことです。このようなことを考えることが数学の実力向上のため，そして数学教育に必要なことだと信じているからです。また教職教養では参考書を読むことを中心に，理解することを優先にして勉強しました。数学でもそうですが，私はただ覚えるだけというのが嫌いであり苦手でもあるからです。面接や模擬授業では，マニュアル通りのことはせず，自分が考えていることをそのまま出すようにしました。これらが成功したのかは定かではありませんが，なんとか試験に合格しました。

教員採用試験を通して，数学の奥深さや自分らしさを改めて考え，感じることができました。そして教員として，一人の大人として成長できたと感じています。またこの合格は一人で掴んだものではなく，教授や友人の協力，支えがあったからこそのことです。今後の教員生活でも，仲間との協力を大切にしながら，常に向上心を持ち，教員としても大人としても成長できるように努力を積み重ねていきたいです。

仲間と日々の積み重ね

教育文化学部　地域科学課程
政策科学選修　佐藤　悠

私にとって，公務員になることを決め，秋田県庁から内定を頂いて試験を終えるまでの約一年半の出来事は，それまでの大学生活とは比べ物にならないほどに楽しく，充実していたというのが一番強く感じたことでした。そう思えるほど有意義なものにできたのは，生協の公務員講座を受講したからです。そこで多くの経験をし，

同じ目標を持つ仲間に出会って様々な思い出を作れたことは，本当に幸せだったと思います。

ここでは公務員試験を受けるにあたって重要だと感じたことを３つ挙げたいと思います。１つめは「情報収集を欠かさないこと」です。これは公務員試験に限りませんが，試験の仕組みや志望先の情報，学習の仕方など，まず相手を知り，受け身にならず常にアンテナを張っておくことが大切になります。

２つめは，「効率を重視すること」です。試験範囲が膨大なため，ただやみくもに量をこなせばよいのではなく，限られた時間の中で質重視の対策をしていく必要があります。

３つめは「普段の生活での挨拶や会話を疎かにしないこと」です。挨拶は自分から大きな声で，目上の方と会話をするときは敬語の使い方に気を配るなど，日々のささいな積み重ねが面接の際に生きてくるはずです。

これらのことを意識していけば，少なからず試験が楽になると思います。また，途中で勉強が嫌になったとき，つらくなったときに友人と話したり遊んだりして支え合えることができれば，とても大きな活力になります。秋田大学では学内で充実した支援を受けられるので，これから公務員を目指される方は，試験突破以外にも得られるものがたくさんある公務員講座をはじめ，大学の就職支援体制などを上手く活用して合格を勝ち取ってください。

公務員を目指される方だけでなく，後輩のみなさんそれぞれが自分の希望する進路を実現できるよう応援しています。

何をしたいか　どうしたいか

教育文化学部　国際言語文化課程
日本･アジア文化選修　佐藤 裕奈

私は教員免許の取得を目指しながら就職活動をして，４月から秋田県で報道記者として活動することになりました。記者を志望したきっかけは実習中の生徒との出会いです。秋田の子どもがどんな思いをしていて，どう生きていくのか，真剣に考えなければならないと考えさせられた３週間でした。

私のように民間企業への就職を考えている方に伝えたい心掛けが３つあります。

１つ目は「自分のやりたいことを，自分の言葉で表す」ことです。企業は社会の中にいくらでもあります。その中で，なぜマスコミなのか。なぜ新聞なのか。なぜこの会社なのか。何度も自問自答した先に，自分の本当の思いが見えます。

２つ目は，「自分の枠を超えろ」ということです。就活は，120％の自分を知るいい機会です。仮に思い通りの結果が得られなくても，自分自身と向き合い，限界に挑んだ経験は絶対に損にはなりません。ピンチをチャンスに変える勇気を持って「自分の枠を超えて」ください。

３つ目は，「自分は自分のままでよい」ということです。「何も取り柄がない」と思っていても，誰にでも必ず長所があります。誇りや怒りなど「絶対に譲れない」感情が個性ですから，嘘やごまかしで自分を飾る必要も無いはずです。

そして，自分が社会を動かしてみせるという強い意志が，内定への近道です。どんな業界･職種でも「問題意識のない人間はいらない」とよく言います。そこで私は，新聞を毎日読みました。社会はどんな世界だろう？自分ならどうしたいだろう？と楽しく読むのがおすすめです。私も記者として，みなさんの好奇心をくすぐるような記事を書いていきたいと意気込んでいます。

夢の実現のために

教育文化学部　人間環境課程
自然環境選修　吉川 千詠

私は，小学校の頃から学校の先生に憧れていて，将来の夢は小学校の教員になることでした。高校に入学しても教員になるという夢は変わらず，自然科学にも興味があった私は中学校の理科の教員を目指し，秋田大学教育文化学部の人間環境課程に入学しました。この秋田大学で，共に夢を目指す仲間たちと出会い，日々の勉強や教育実習など励まし合いながら乗り越えてきました。３回にわたる教育実習を通じ，小学校の教員という夢も捨てきれず，中高だけでなく小学教の教員免許も取得したいという気持ちが強くなってきました。そんな中，教授から秋田大学院での教職チャレンジという制度があることを聞き，３年次の冬に大学院へと進学することを決めました。

大学院に行く場合，自分が院で何を研究して何を学びたいのか，明確にしておくことが大切です。そして，自分が進みたい分野の研究室へ訪問し，雰囲気や研究内容など事前に掴んでおくことが必要です。また，受験勉強をする前に，学務や先輩を頼りながらできるだけ多くの過去問を集めたり話を聞いたりするなど，情報収集をしてから勉強を始めるようにしました。秋田大学大学院の試験では，英語と専門教科の２科目をテストしますが，特に英語は慣れることが大切だと思い，とにかく量をこなしました。私は家で集中して勉強することができないので，研究室に行って，教員採用試験や公務員試験を受ける友人たちと一緒に勉強をし，刺激を受けながらモチベーションを上げました。

合格が決まるまでは，勉強をしながら「もし落ちたらどうしよう」と，不安になることも多々ありましたが，やはり，周りにいる友人や大学の教授が励ましてくれたおかげで最後まで信念をもって頑張ることができました。夢を実現するためには，努力の積み重ねが大切だと，大学生活を通して学びました。進学がゴールではありません。向上心を忘れず，大学院でも夢を実現させるために頑張っていきたいです。

教育文化学部の就職支援活動について

就職委員長　林　信太郎

今年は経済状況がやや上向きになり，若干就職状況が改善してきました。しかしながら，油断はできません。企業の採用担当は相変わらず質重視の採用を行っていますので，十分な準備の元に就職戦線にのぞむ必要があります。

今年度は教員採用試験に関して大きなニュースがありました。教員就職率が56．7%とひさしぶりに50%台を超え，全国44大学中31位となりました。これもひとえに保護者の皆様のご支援・ご協力によるものです。心から感謝いたします。昨年は全国最下位で文部科学省から何度も厳しい指摘を受けていました。

さて，教育文化学部の就職支援活動の中心は，後援会費で運営されている就職情報室です。ここには２名の女性スタッフがいますが，就職相談，各種イベントの開催，面接練習などのアレンジ等で御活躍いただいています。学生一人一人を良く知っていますので，きめ細やかな対応（就職支援ではこれが大事です）を行っていただいています。

教職については，スタージュという講座を開催しています。学部の実務家教員やフェローの先生方（教育委員会や学校での教育経験の豊富な教員）による，模擬授業や場面指導など２次試験対策を中心にした講座が定期的に開催されています。今年度は合宿形式のスプリング・キャンプやオータム・キャンプも開催され，大きな効果をあげています。

公務員については，個人指導，それも二次試験対策が中心になっています。就職情報室に行くと練習をアレンジしてもらえます。およそ１時間，大学の教員が対応しますので，二次試験の基礎力が深く身に付きます。

民間企業についても個人指導が中心になります。エントリーシートの書き方，その前提になる自分の学生時代の振り返りなどの支援を教員が直接行います。このアレンジも就職情報室で行っています。

就職情報室はこのように大変大事な役割を持っています。ぜひ，お子さんに必ず就職情報室に行くようお勧めください。それだけでも，就職活動に成功する可能性は確実に高まります。

最後に一つお願いがあります。就職活動には，かなりのお金がかかります。教職，公務員，民間企業を問わず最低30万円はかかることになると思います。大学の学費を払うだけでも大変なところにたいへん恐縮なお願いですが，こつこつ貯金するなどしてお子さんの就職活動にお備えいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

就職内定状況

２月末データ

学部・課程等名		卒業予定者数	進学予定者数	求職者数			就職内定者数			就職内定率			その他
				合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	
教育文化学部	学校教育課程	106	6	97	29	68	52	12	40	53.6	41.4	58.8	3
	地域科学課程	67	1	65	26	39	56	21	35	86.2	80.8	89.7	1
	国際言語文化課程	70	1	66	12	54	46	11	35	69.7	91.7	64.8	3
	人間環境課程	65	7	58	31	27	45	23	22	77.6	74.2	81.5	0
	小　計	308	15	286	98	188	199	67	132	69.6	68.4	70.2	7
教育学研究科		34	0	34	19	15	23	14	9	67.6	73.7	60.0	0
合　計		342	15	320	117	203	222	81	141	69.4	69.2	69.5	7

就職情報室 利用学生インタビュー

後援会の会費で運営されている就職情報室。普段、学生はどのように利用しているのかインタビューしました。

インタビューに答えてくれたみなさん（前列左より）

国際言語文化課程欧米文化選修３年次　奥穂奈美さん
学校教育課程教科教育実践選修３年次　小泉千尋さん
就職情報室　村上さん
（後列右より）
人間環境課程自然環境選修３年次　景山優介さん
地域科学課程生活者科学選修３年次　土田泰斗さん
就職情報室　信太さん

Q：就職情報室をどのように利用していますか？

小泉：初めて利用したのは，研究室の先輩に連れてきてもらったときです。質問にとても丁寧に答えてくださるので，疑問の解決につながるとともに不安も解消されます。ここを利用するようになって，先輩方とのつながりができました。

土田：就職活動を意識し始めた３年次の11月頃から，週に４～５回利用しています。なんとなくガイダンスに参加しているだけではだめだと思い，友人と一緒に利用してみました。実際に来てみると，合格・内定した先輩方と会える機会も多く，内定した先輩方が毎日のように利用している姿を見てからは，ほぼ毎日通いコツコツ頑張るようになりました。

Q：利用してみて良かったことはありますか？どんな場所ですか？

奥：教育文化学部の学生のために開かれている場所なので，好きな時に来てじっくり話を聞いてもらうことができます。他では手に入らないOB・OGの方々の就職活動の情報を知り，エントリーシートの書き方など参考にさせていただきました。就職情報室のおふたりが気さくに話しかけてくれるため，アットホームで堅苦しい雰囲気は全くありません。むしろ，また行きたくなる雰囲気の場所です。

景山：教員採用試験の情報がたくさんあります。さらに先生方や先輩と話す機会が増え，勉強のアドバイスの他にもたくさんの話を聞くことができ，気分転換にもなりました。また，高い意識を保つことができます。就職情報室は他課程の先輩や友人と自分をつなげてくれた場所で，全体のガイダンスに出席しただけでは得られないものがたくさんあります。

Q：最後に，ご両親へのメッセージをお願いします。

小泉：私たちの就職活動を支えていただき，本当にありがとうございます。自分の夢の実現に向かって頑張りたいと思います。

土田：今まで迷惑ばかりかけてきたけど，安心してもらえるようにしっかり自立して，成長した姿を見せることができるよう頑張ります。

奥：就職難が叫ばれる時代ではありますが，私たちは支援してくださる方々がいる素晴らしい環境の中で就職活動ができています。本当にありがとうございます。

景山：就職情報室を利用することで，勉強に対するモチベーションが上がります。この調子で前向きに試験対策を進めていけるよう，仲間と一緒に頑張ります。応援よろしくお願いします。

Q：ありがとうございました。

旭水会のご案内

旭水会会長　大友 康二

同窓会・同期会等の多くは，先輩後輩との親睦・母校への事業協力等が普通である。旭水会もその例に洩れないのだが，もうひとつ異なる観点から，新しい活動を起こしたいという他と異なる面を持つ。

それは総会とか講演会とか従来型のものではなく，ひとつ独自の事業を起こそうではないか，という県民運動としての働きである。

全国各地で車の発展・普及によって，鉄道線路の利用が少なくなり，請け負った第三セクターも赤字を抱えて，その運営・会社維持に努力中である。

秋田県内にも，本荘・矢島を結ぶ鳥海山ろく線や角館・鷹巣間の秋田内陸縦貫鉄道（内陸線）がある。二つとも赤字で，その存続に向けて会社や沿線住民中心に運動中である。

言うなれば，これは利用者・沿線住民の問題だけではなく，秋田県の財産でもある。財産を守るために，県民一同が努力しなければならないのは当然のことだろう。

旭水会では一昨年からこの財産を守ろうと，運動を展開し続けている。スローガンは「一人一年一回，内陸線・鳥海線を利用しよう」というものである。限られた会員数のささやかな運動であるが，次第に大きなうねりとなって，鉄道を守る県民運動の意識づけ・乗る・利用する行動となって欲しいと願っている。一滴の雨だれでも一粒の米は洗えるのだ。皆さんの協力が欲しい。

教員採用支援講座「スタージュ」を開講しています。

教育文化学部では教員採用候補者選考試験（以下，教採）に取り組む学生を対象に，教員採用支援講座「スタージュ」を就職委員会教職担当が主導して開講してきました。

スタージュとはフランス語で「研修」「実習」を意味し，英語での綴りは「stage（ステージ）」で，「舞台」「段階」などを意味します。将来の進路希望達成に向けて準備する時期に教員を目指す仲間と「スタージュ」，つまり「研修」「実習」を生かして，最終的には教員としての「舞台」に立って活躍してほしいという願いを込めて名付けられました。

教員採用支援講座「スタージュ」は教員養成に関わる授業，活動等と連携して支援を行っており，学生が教採に向けて取り組む中で，教員としての使命感や必要な知識・能力等を身につけることを目的としています。運営は参加する学生が自ら行っており，受け身ではなく，主体的かつ自主的に学び活動できる環境を形成することで，社会人として自立できるようにします。対象は主に学部３年次以上及び修士１年次以上ですが，学部１年次，２年次も参加が可能で，早い段階からの意識付けを重視しています。

今年度は５月に教採対策春季合宿「スタージュ・スプリングキャンプ」を実施し，49名の学生が参加しました。秋田市内の施設に宿泊し，教育文化学部教職員の参加と指導によって，教採の集団面接や個人面接，小論文，模擬授業などを想定した研修を行いました。また，10月にも教採対策秋季合宿「スタージュ・オータムキャンプ」を秋田県総合教育センターで実施。参加した学生からは「仲間とともに学び合うことで，様々な見方や考え方を学んだ」「参加したことで，これまでよりも遙かにモチベーションが上がった」などの声が聞かれました。なお，合宿には四反田学部長も参加しています。

合宿の実施にあたっては後援会の皆様からもご支援をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

スタージュ・スプリングキャンプ（写真右が四反田学部長）

スタージュ・オータムキャンプ
（写真中央が四反田学部長と林就職委員長）

学部長あいさつ

教育文化学部長　四反田　素幸

後援会の皆様には日頃より学部の様々な活動への多大なるご支援，ご協力を賜り，心より感謝申し上げます。懸案でありました学部の教員就職率は，お陰さまで前年度に比べて15%アップしました。教員就職支援活動＜スタージュ＞の一環として合宿を行うことを企画し，昨年５月にスプリングキャンプを実施したところ，教員採用試験では良好な結果を残すことが出来ました。昨年10月には主に３年次学生を対象に，秋田県総合教育センターでオータムキャンプを行いましたが，秋田県教育委員会の方から『求められる教師になるための心構え』という講話を頂き，参加した学生諸君には教職と向き合う意識啓発の良い機会となったようです。

さてマスコミの報道等で既にご承知かと思いますが，秋田大学は平成26年４月から新設の国際資源学部と改組した教育文化学部および理工学部（工学資源学部から学部名称を変更），そして医学部の４学部体制になります。また教育文化学部は学校教育課程と地域文化学科の１課程１学科体制に変わります。学校教育課程の大きな変更点は「英語教育コース」と「理数教育コース」を設けたことです。地域文化学科は，これまでの３つの新課程（ゼロ免課程）で培った人材養成の実績をベースとして再編し，社会科学系分野を中心とした「地域社会コース」と人文科学系分野を中心とした「人間文化コース」で構成することになりました。詳しくは学部のホームページをご覧下さい。

改組後の教育文化学部も何卒宜しくお願い申し上げます。

大学・学部関係行事予定（平成26年3月～）

3月	22日	秋田大学卒業式
4月	1日	前期開始
4月	3日	春季休業終了
4月	4日	在来生ガイダンス
4月	5日	入学式
4月	7日	新入生ガイダンス
4月	8日	前期授業開始
6月	1日	創立記念日
8月	9日	夏季休業開始（9月28日（日）まで）
9月	30日	前期終了
10月	1日	後期開始
10月	18日	大学祭（19日まで）
12月	26日	冬季休業開始
1月	8日	冬季休業終了
2月	19日	春季休業開始（4月2日（木）まで）
3月	22日	卒業式
3月	31日	後期終了

秋田大学教育文化学部・教育学研究科 後援会情報誌
ひだまり Vol.5
平成26年3月1日発行
秋田大学教育文化学部
広報・地域連携推進委員会
〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号
平成22年3月1日創刊
http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman